

郡家の庄の時代

福島の名は見えない

下の図を見て頂きたい。

長崎保・東吉光保を大きな群として、南庄・北庄に分けられた、次の箱の中の名前で「郷」を付してある在所は、当時の村落である。

上郷は現在でも高堂にその字名があるし中郷は現在の中の江であるし下郷は、下の江である、二口も赤井も任田もあるのが判る。

これを見る限りでは、中世の『郡家の庄』が発足した時代には、残念ながら福島の名は見えない。

私の推理であるが、赤井と共に田園の中に農耕に励んでいた私達の先祖が見えるように思うがいかがであろうか。

先の論文で、元禄時代に『村立て』の史料が、加賀藩史料から発見した、と書いたが、この時代に村中あげて新しい希望に燃えて、砂丘地に上陸したのではなからうか。

十村のあった犬丸から派遣された、犬丸組・手取の洪水を避けて新天地を福島の丘に求めた勤勉・真摯な農民の姿が想像される。

その例が、その後であるが隣の吉原の人たちが、明治末年に村本さんの指揮の下で全村挙げて条里を作り、上陸してきた姿を思い出す。

